

## <参考資料>

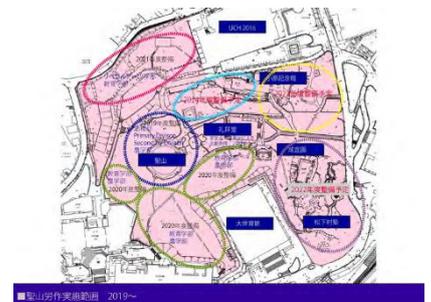
### Tama Treeプロジェクト（2018年度～）

2018年度から、間伐材を教育活動などに活用していく「Tama Tree プロジェクト」がスタート。テープカッターや椅子を制作や、STREAM Hall 2019 内の装飾部材に使用されるなど、有効活用しています。間伐材を利用して中・高・大学生が制作した木工作品の中には、上級生が下級生に贈呈したものや、学内の教材としての利用だけでなく、地域交流のツールとして制作した作品もあり、様々な取り組みに発展しています。



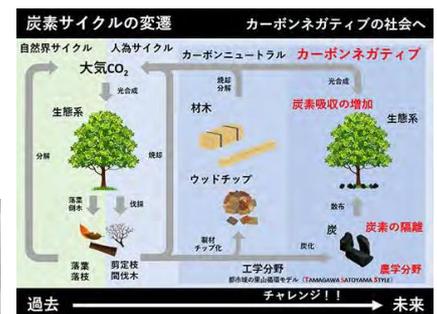
### キャンパス内の里山環境の整備（2019年度～）

2019年度より継続的に行われている聖山労作。「守り、継承する聖山」をコンセプトに、幼稚園生から大学生、さらに教職員や卒業生までが参加し、玉川学園のシンボルでもある聖山の環境整備に取り組んでいます。



### マイナスカーボンを目指す、世界初の実証実験

農学部の友常満利准教授が提唱する、CO<sub>2</sub>排出量ゼロの先を行く、マイナスカーボン（より多くのCO<sub>2</sub>を留め置く）に関する世界初の実証実験に取り組んでいます。1,000年単位でCO<sub>2</sub>を留められる炭の性質に着目し、木材を炭化させることで炭素の隔離を行い、炭素吸収量の増加を目指しています。



### 利活用を進める環境づくり

#### 1) Tamagawa Wood Seasoning Station(2021年度～)

学内で発生した間伐材を乾燥させるための施設です。「Tama Tree」を教材や建材として活用するために2021年度に整備し、木材低温乾燥装置を導入。さらに子供たちへの「本物に触れる教育」を実現するため、木材を45度で低温乾燥させることで木の酵素を保ち、精油成分を残すことができないか研究しています。



2) メーカーズフロア (大学) ・アートラボ (中学部)

切る、削るための工具を中心とするツールがあるものづくりの拠点。3Dプリンタや、レーザーカッター等を備えた、多様な木工制作活動が行えます。



<対外的な活動>

**第42回横浜開港祭【オリジナルコースターワークショップ】** 実施日：2023/6/3 (日)

第42回横浜開港祭のテーマである「サーキュラーエコノミー」の考え方を実践する取り組みとして、学内の間伐材と、大学内で研究を推進している陸上養殖「玉川丘のアワビ」で捨てられてしまう殻を利用したワークショップを開催。多くのお客様に参加いただきブースは大盛況でした。



**FC町田ゼルビアホームゲーム【応援バンドワークショップ】** 実施日：2023/7/1(土)

JリーグFC町田ゼルビアのホームゲームで、「みんなで木の輪を広げよう」をコンセプトに、いろいろな木を知ってもらう展示とワークショップを実施。マスコットを模した鳥の形になるクラフトペーパーにキャンパス内の落ち葉をつけて、木の葉の違いから子供たちに自然観察の体験を与え、地域 (町田市) に愛着を持ってもらうことを目指しました。



以上

2/2